

令和 6 年度「地球規模保健課題解決推進のための研究事業  
Global Alliance for Chronic Diseases (GACD) collaborative call: Primary and Secondary  
Prevention of Cancer in Low and Middle Income Countries」

令和 2 年度公募採択課題の事後評価について

令和 6 年 11 月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
国際戦略推進部国際事業課

令和 6 年度事後評価結果を公表します。

1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について実施状況、成果等を明らかにし、今後の展開及び実用化に向けた指導・助言等を実施することを目的として実施します。この度、「地球規模保健課題解決推進のための研究事業 Global Alliance for Chronic Diseases (GACD) collaborative call: Primary and Secondary Prevention of Cancer in Low and Middle Income Countries」の令和 2 年度公募採択課題について、本事業における課題評価委員会設置要綱、課題評価実施要綱に基づき、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

2. 事後評価対象課題

研究開発課題名：ブータンにおける国家的胃がん予防戦略のための実装および臨床効果の検討

研究開発代表者：山岡 吉生

研究開発機関名・職名：大分大学 教授

評価コメント：

- 新型コロナ感染症まん延下においてもブータン国内で約 1,100 症例を対象とした臨床研究を行い、胃がんに関する地域住民向けの啓発および教育活動、胃がんリスク検診と内視鏡検査、内視鏡検査医向けの研修活動などを行い概ね研究開発計画を達成したことは評価できる。
- 本研究を遂行する過程において、研究開発代表者らはブータンの政府・大学・医療機関と十分な連携体制を構築しており、ブータン政府が主体的に胃がん予防の対策に取り組む中で上記の活動が持続されることが期待できる。
- 今後も胃がん予防の取組みを継続するため、内視鏡検査技術向上のための研修やオンライントレーニングなどを主導できる現地医師の確保と育成が望まれる。

### 3. 評価タイムライン

書面評価: 令和6年7月9日～31日

ヒアリング評価: 令和6年9月18日

### 4. 課題評価委員(◎評価委員長)

(敬称略 50音順)

氏名	所属・職名
黒崎 伸子	国境なき医師団日本 前会長
島津 太一	国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部 実装科学研究室 室長
谷村 晋	三重大学大学院医学系研究科広域看護学領域 教授
林 玲子 ◎	国立社会保障・人口問題研究所 所長
望月 修一	山梨大学大学院総合研究部医学域臨床医学系 臨床研究支援講座 教授

### 5. 評価項目

#### ①研究開発達成状況について

- ・ 研究開発計画に対する達成状況はどうか

#### ②研究開発成果について

- ・ 成果が着実に得られたか
- ・ 成果は地球規模保健課題分野の進展に資するものであるか
- ・ 成果は新技術の創出もしくは新技術の地球規模保健課題への活用に資するものであるか
- ・ 成果は地球規模保健課題的ニーズに対応するものであるか
- ・ 必要な知的財産の確保がなされたか

#### ③実施体制

- ・ 研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されていたか
- ・ 国内において十分な連携体制が構築されていたか
- ・ 対象とする途上国関係者を含む、海外の研究者/機関、援助関係者/機関、行政官/機関等との十分な連携体制が構築されていたか

#### ④今後の見通し

- ・ 今後、研究開発成果のさらなる展開が期待できるか
- ・ 研究対象国において提案、提言に基づいた保健医療事業の実施、もしくは、世界保健機関等の作成している世界的な指針、戦略等への反映が期待できるか

#### ⑤所要経費

- ・ 経費の内訳、支出計画等は妥当であるか

#### ⑥その他事業で定める事項

- ・ 地球規模保健課題について、世界保健機関等の作成している世界的な指針、戦略等と整合性が取れていたか、あるいは建設的な改定に資するものであったか
- ・ 地球規模保健課題について、世界的な潮流を踏まえていたか
- ・ 途上国を対象とする研究の場合、対象とする途上国の現状に合っていたか
- ・ 途上国政府や国際機関等に対する保健課題解決推進のための提案、提言が行われたか、もしくは、行われる予定か
- ・ 我が国の地球規模保健課題解決推進のための取組に資するものであったか

⑦総合評価

①～⑥及び下記の事項を勘案して総合評価する

- ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守していたか
- ・ 若手研究者のキャリアパス支援が図られていたか
- ・ 専門学術雑誌への発表並びに学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)が図られていたか

以上

## 令和6年度『地球規模保健課題解決推進のための研究事業』

### 令和2年度公募課題の事後評価について

令和6年11月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構

国際戦略推進部国際事業課

令和6年度事後評価結果を公表します。

#### 1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について実施状況、成果等を明らかにし、今後の展開及び実用化に向けた指導・助言等を実施することを目的として実施します。この度、「地球規模保健課題解決推進のための研究事業」の令和2年度公募採択課題について、本事業における課題評価委員会設置要綱、課題評価実施要綱に基づき、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

#### 2. 事後評価対象課題

研究開発課題名：カンボジアにおける分娩監視装置導入と、その死産・新生児死亡の減少効果に関する研究開発

研究開発代表者：松井 三明

研究開発機関名・職名：神戸大学 教授

評価コメント：

- 新型コロナウイルスまん延下においてもカンボジア国内で約900症例の臨床研究を行い、分娩監視装置(CTG)をカンボジアに導入しただけでなく、医療従事者に十分なトレーニングと監督指導を行うことにより、より良い成果を目指した点は評価できる。
- 研究開発代表者らとカンボジア保健省との連携体制が構築されており、カンボジア側が費用負担した諸研修の実施、カンボジア人技術者によるCTGのセキュリティ対策などの自立化に向けた取組みを進めたことは評価される。
- 今後は、CTG導入がもたらす死産・新生児死亡に対する減少効果について統計学的エビデンスを示すことが求められる。
- また、CTGを医療機関に導入する際の臨床ガイドラインは各医療機関の実情に合わせて策定する必要があるとするに留まっており、現地での自立的な導入・活用に向けての具体的道筋として必ずしも十分とは言えない。

#### 3. 評価タイムライン

書面評価： 令和6年7月9日～31日

ヒアリング評価： 令和6年9月18日

## 4. 課題評価委員(◎評価委員長)

(敬称略 50 音順)

氏名	所属・職名
黒崎 伸子	国境なき医師団日本 前会長
島津 太一	国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部 実装科学研究室 室長
谷村 晋	三重大学大学院医学系研究科広域看護学領域 教授
林 玲子 ◎	国立社会保障・人口問題研究所 所長
望月 修一	山梨大学大学院総合研究部医学域臨床医学系 臨床研究支援講座 教授

## 5. 評価項目

## ①研究開発達成状況について

- ・ 研究開発計画に対する達成状況はどうか

## ②研究開発成果について

- ・ 成果が着実に得られたか
- ・ 成果は地球規模保健課題分野の進展に資するものであるか
- ・ 成果は新技術の創出もしくは新技術の地球規模保健課題への活用に資するものであるか
- ・ 成果は地球規模保健課題的ニーズへ対応するものであるか
- ・ 必要な知的財産の確保がなされたか

## ③実施体制

- ・ 研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されていたか
- ・ 国内において十分な連携体制が構築されていたか
- ・ 対象とする途上国関係者を含む、海外の研究者/機関、援助関係者/機関、行政官/機関等との十分な連携体制が構築されていたか

## ④今後の見通し

- ・ 今後、研究開発成果のさらなる展開が期待できるか
- ・ 研究対象国において提案、提言に基づいた保健医療事業の実施、もしくは、世界保健機関等の作成している世界的な指針、戦略等への反映が期待できるか

## ⑤所要経費

- ・ 経費の内訳、支出計画等は妥当であるか

## ⑥その他事業で定める事項

- ・ 地球規模保健課題について、世界保健機関等の作成している世界的な指針、戦略等と整合性が取れていたか、あるいは建設的な改定に資するものであったか
- ・ 地球規模保健課題について、世界的な潮流を踏まえていたか
- ・ 途上国を対象とする研究の場合、対象とする途上国の現状に合っていたか

- ・ 途上国政府や国際機関等に対する保健課題解決推進のための提案、提言が行われたか、もしくは、行われる予定か
- ・ 我が国の地球規模保健課題解決推進のための取組に資するものであったか

⑦総合評価

①～⑥及び下記の事項を勘案して総合評価する

- ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守していたか
- ・ 若手研究者のキャリアパス支援が図られていたか
- ・ 専門学術雑誌への発表並びに学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)が図られていたか

以上